

●漁況情報

- 西湘地域の各定置網でブリ（銘柄ブリ及びワラサ）が豊漁となっています。トン単位の漁獲も散見され、市場がにぎわっています。
- 4月に入って、大磯の定置網でアカカマスが豊漁となっています。4月10、14日には1トンを超える漁獲がありました。

●浜の話題

- 腰越漁協では、3月29日の理事会で鈴木（たけし丸）さんに代わり、池田（池田丸）さんが新組合長に選任され、4月1日付で腰越漁協代表理事組合長に就任されました。
- 4月4日、葉山町漁協では、ダイビングショップ NANA、（一社）葉山の森保全センター、（公財）日本釣振興会、餌木等の釣り具メーカーである（株）ヤマリアの協力の下、地先の適地にアオリイカ産卵礁を設置しました。産卵礁は、葉山の森保全センターが森林保全のために伐採した樹木を束ねたものを用い、5月8日には多くのアオリイカの産卵が確認されました。伐採木の有効活用がSDGsの取り組みとして、テレビ局の取材もありました。5月20日、TBS「どうぶつ奇想天外」の特別番組で放映される予定だそうです。



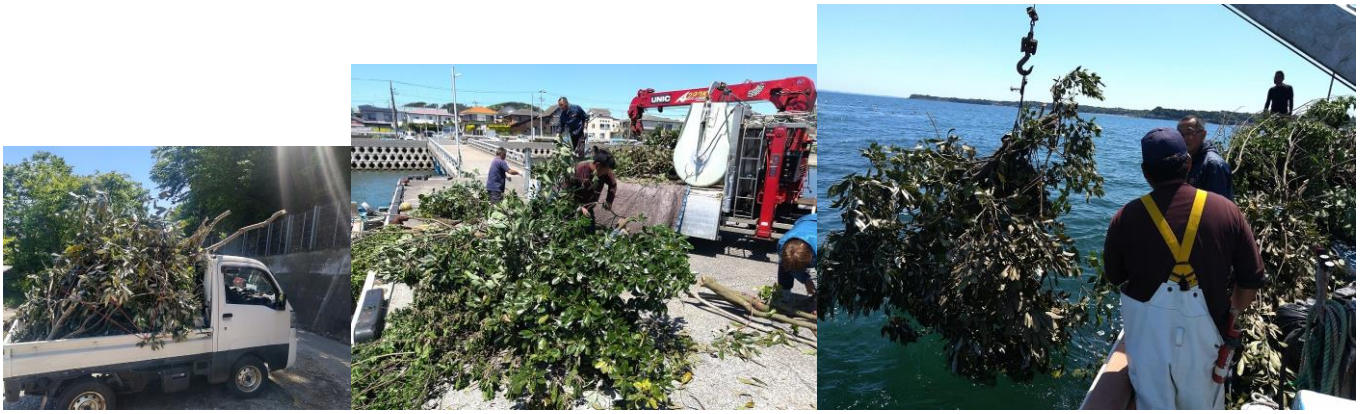
葉山の森保全センターに提供して頂いた伐採木

- 4月11日、小坪漁協所属 座間指導漁業士は、当センター栽培推進部が生産した種苗を用いて、12月13日から海面筏で育成しているアカモクを収穫しました。種苗生産した研究員によれば、種挿し時10cmだった種苗は5m以上に大きく成長し種子を保有する株が多く見られ、漁業者が増殖用の親株として小坪地先の岩場に設置しました。



当センターで生産したアカモク種苗が大きく育ちました！

- 4月12日、神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会の「湘南しらす」の生しらす、釜揚げしらす、たたみいわしがテレビ東京「よじごじDays」で紹介されました。
- 4月13日、三和漁協上宮田支所所属漁業者は、長井町漁協アオリイカ部会の御厚意で入手した伐採木で作製したアオリイカ産卵礁を地先の適地に設置しました。また、27日にはさらに同漁協城ヶ島支所の漁業者と共に、県横須賀三浦地域県政総合センターから入手した伐採木で作成した産卵礁を、それぞれの地先の適地に設置しました。上宮田ではアオリイカ増殖のための初の試みとなり、漁業者も期待を寄せております。城ヶ島地先では、設置してから5日目の5月2日に、早くも多くのアオリイカの産卵が確認されました。



伐採木を積み込み、束ねて土嚢を付け、定置網漁船でアオリイカ産卵適地に設置しました(上宮田)



5月2日に産み付けられていたアオリイカの卵塊(城ヶ島)

○ 水産技術センター栽培推進部では、今後の海面養殖業の振興のため、今年度から「魚類等養殖技術開発試験」に取り組みます。4月13日に、小田和湾の海面生け簀でマイワシの蓄養に携わっている、長井町漁協 前田青年漁業士(賢栄丸)さんにお世話になり、蓄養施設の視察と情報交換会を開催しました。当日は、同漁協小澤組合長にもご参加いただき、海面養殖を試行する栽培推進部 部長と研究員が、前田漁業士から海面生け簀での蓄養についてアドバイス等を頂きました。



小田和湾の海面蓄養生け簀施設と資材等の視察

同漁協小澤組合長・前田漁業士との情報交換会

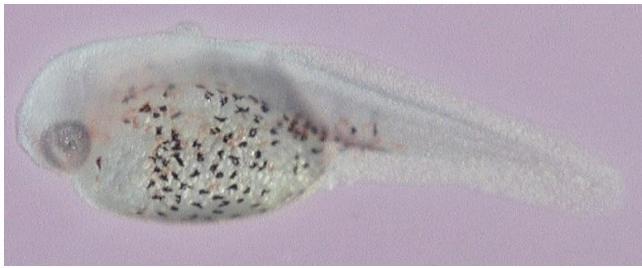
○ 4月14日～25日、当センター栽培推進部では、長井で産卵期に水揚げされたトラフグ親魚からの人工採卵と孵化に成功しました。県内でトラフグの人工採卵は初の試みで、担当の研究員によれば7尾の雌から700万粒以上を採卵し、孵化した仔魚の成育も順調だそうです。人工採卵により、相模湾の天然親魚由来の良質な種苗の安定供給に繋がることから、漁業者も期待を寄せております。



採卵に用いた成熟親魚

人工採卵の様子

受精卵



孵化したばかりのトラフグ仔魚

- 4月18日、かながわ県民センターにおいて、今年度初回の漁業士役員会を開催しました。当日は、11名の各浜の代表役員が集まり、「令和5年度要試験研究課題」等について協議し、漁業士会として、県下の漁業の総合的な課題、水温上昇に伴う魚種や漁獲量の変動に対する対策や、磯焼けやワカメや海苔等の食害対策についての課題を提出することになりました。



役員会当日の様子

- 4月19日、横須賀市東部漁協田浦支所の漁業者がワカメの種付け作業を行いました。海水を満たした水槽にメカブを入れ、遊走子（ワカメの種のようなもの）の放出を確認した後、種糸を巻いた枠を水槽に入れて種付けを行いました。来年のワカメの豊作に期待を込めての作業でした。



メカブの切り取り



種付け

- 4月19日、体験学習の一環で、今年三崎に開校した「日本さかな専門学校」の生徒78名が、上宮田を訪れました。当日は、三和漁協上宮田支所の地曳網体験をした後、三浦の海の魚や漁業について、同漁協吉田組合長と普及員が説明しました。

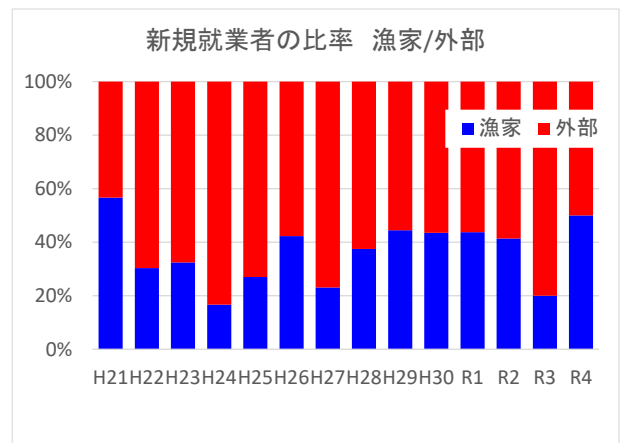
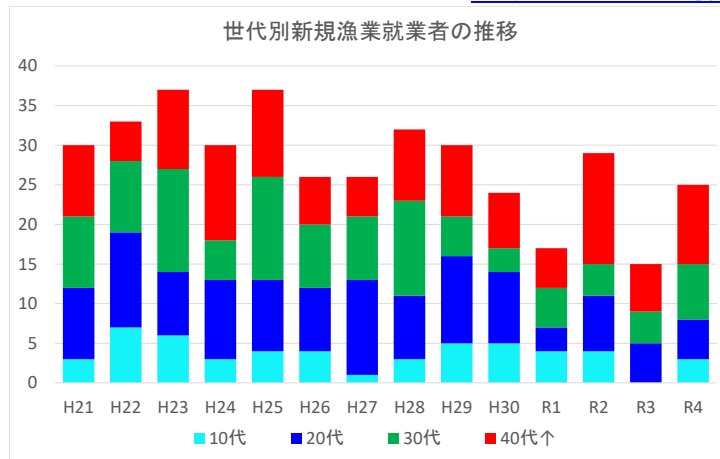


当日の様子

- 4月21日、県内の漁協の皆さまに調査協力頂いた、新規漁業就業・就労状況を集計しました。昨年度の県内の新規就業者は25名で前年（15名）比1.6倍でした。また、漁家と漁業外からの新規参入

者の比率を見ると、昨年度は外部からの新規参入者が半数を占め、その内3名が JF 神奈川県漁連と水産課の「かながわ漁業就業促進センター」修了生でした。漁業参入志向のある方は、JF 県漁連の新規就業者募集情報や、お知らせの「漁業就業センター」の記事をご覧ください。

神奈川県内の漁業就業者募集情報 <http://www.kngyoren.jp/gyogyoushaboshu.html>



○ 4月21日、柴漁港区域で令和4年11月から実施していたカキ箒養殖試験で育てたマガキの状態の確認が、横浜市漁協柴支所の漁業者や漁協職員により行われました。箒やカキの殻には付着生物などが多く付いていましたが、貝そのものは大きく成長し、手に取るとずっしりとした重みを感じられました。加熱して試食した方々からは、「しっかりした身が殻いっぱい詰まっている」「うま味と甘みがあっておいしい」などの声が聞かれました。



大きく育ったカキ



身もぎっしり

○ 4月21日、平塚市漁協は、「小学校での『ふれあい給食』による低未利用魚の普及活動」により、第7回食育活動表彰 消費・安全局長賞を受賞することになりました。市内小学校で、シイラやシュモクザメを活用した給食メニューの展開や、漁業者が地元の漁業や魚に関する授業を行った後、児童と一緒に魚メニューの給食を囲む「ふれあい給食」の実施等の取り組みが評価されました。なお、表彰式は6月24日に「第18回食育推進全国大会 in とやま」において開催されます。

農林水産省プレスリリース

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/230421.html>

農林水産省 maffchannel

<https://www.youtube.com/watch?v=yJOScOP0Vxk>



シイラから南蛮給食



シュモクザメ給食 美味しそうです!

シイラやシュモクザメを活用した給食メニュー(農林水産省 maffchannel から引用)

○ 4月26日、鎌倉漁協で、鎌倉はまぐり部会総会が開催され、昨年1年間の調査結果と、それを踏

また更なる資源増殖管理やブランド化に向けた取組み事項について、普及員が説明しました。同部会では、令和2年より、漁獲個数の4倍放流する放流歩金を積立て、部会員が一丸となってハマグリのも更なる増殖を目指してきましたが、3年目にして、貝桁並びに熟練者の鋤簾操業で1軒当たり年間100万円以上の売上げに達しました。



当日の様子

- 4月29日、藤沢市漁協所属の地引網が今年最初の操業「初網」を行いました。イシダイ、ホウボウ、コノシロ等が漁獲されました。貸し切りでの観光地引網のイメージが強い漁法ですが、水揚げを目的とした漁業者だけによる操業も定期的に行われています。
- 4月29日、岩漁協の皆木青年漁業士が代表を務める株式会社岩ガキBASEが真鶴町岩沖で生産しているイワガキ「鶴宝」の今シーズンの出荷が始まりました。町内の飲食店や鮮魚店などで販売されるほか、EC販売やふるさと納税の返礼品にも登録されているとのこと。詳しくは岩ガキBASEのウェブサイトをご覧ください。 <https://iwagakibase.com/>



イワガキ「鶴宝」(左)と養殖作業(右) (岩ガキBASEより)